

2022年度（2023年3月期） 第2四半期決算説明資料

2022年11月9日

H.U.グループホールディングス株式会社

（証券コード：4544）

-
- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDAの数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。
 - ※ 「親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益」を「当期（四半期）純利益」と省略する場合があります。
 - ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
 - ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)

臨床検査薬事業 : IVD (In Vitro Diagnostics)

ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)

- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2021年度上期 : 1USD = 109.80 JPY 1EURO = 130.89 JPY

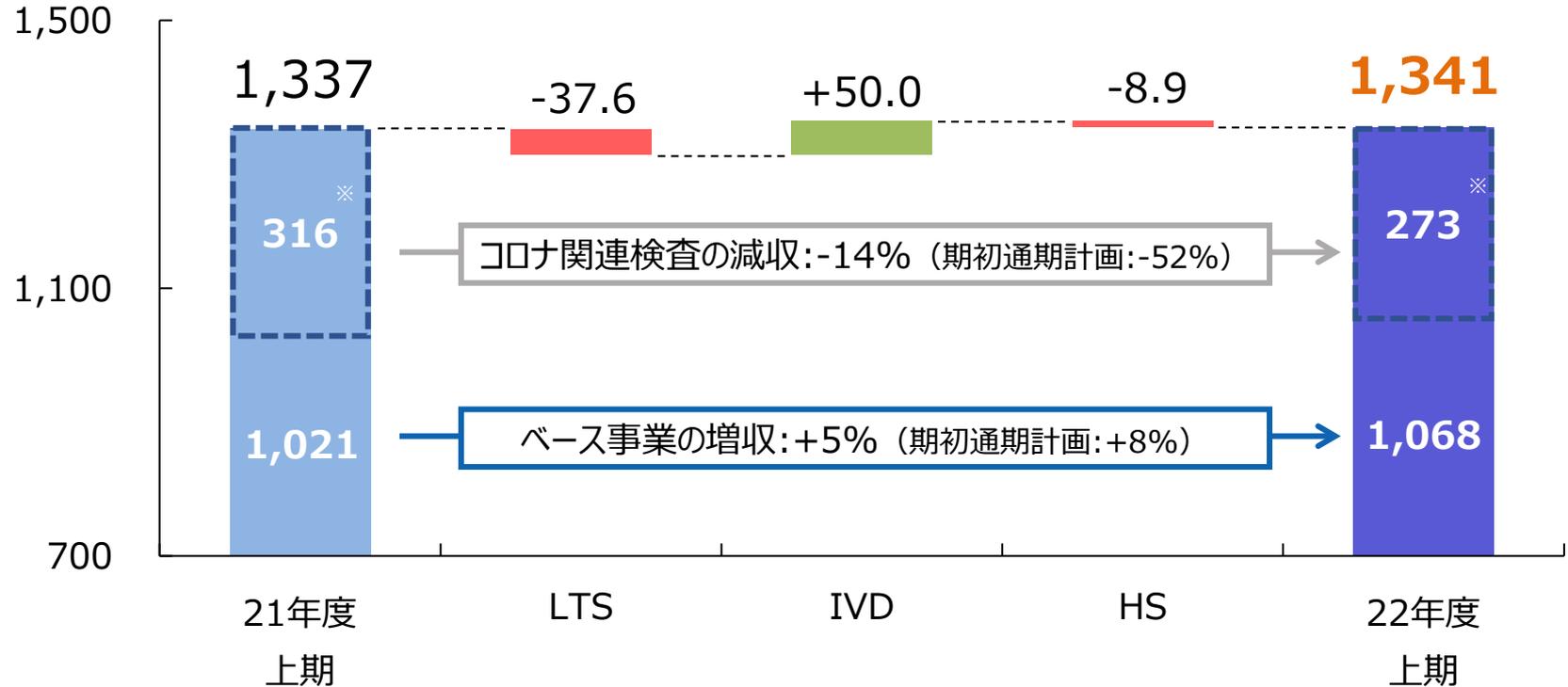
2022年度上期 : 1USD = 133.97 JPY 1EURO = 138.70 JPY

2022年度通期(見通し) : 1USD = 139 JPY 1EURO = 140 JPY

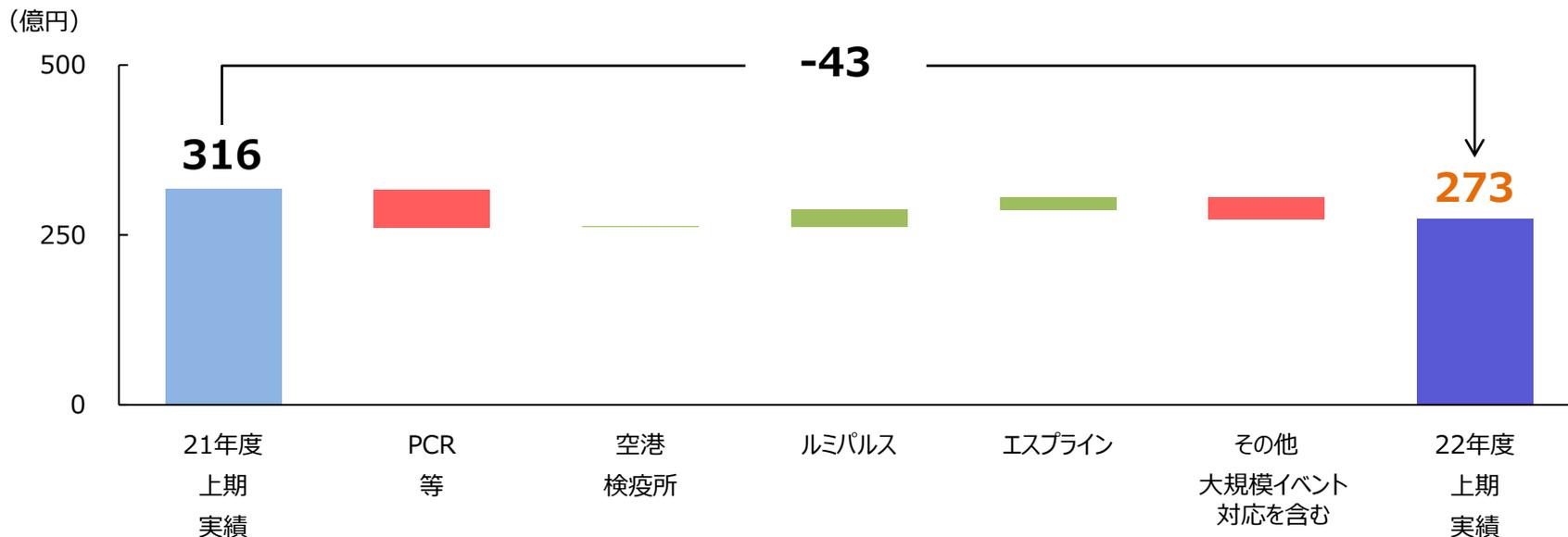
2022年度第2四半期決算概況

連結売上高 対前年同期比較

(億円)



22年度上期COVID-19関連売上高（対前年同期比）



主な要因

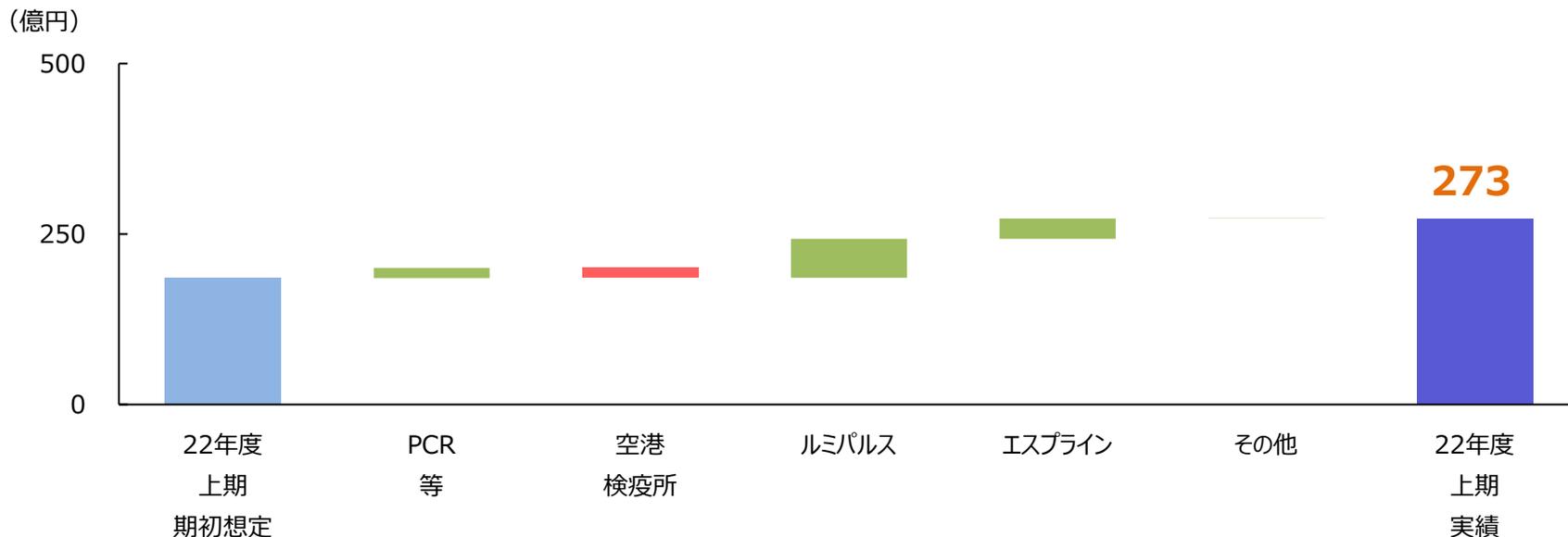
ポジティブ

- 第7波にともなう抗原検査製品需要の増加 (ルミパルス、エスプライン)

ネガティブ

- PCR検査の診療報酬改定 (1,800点 → 700点)
- 21年度は一過性要因あり (大規模イベント対応)

22年度上期COVID-19関連売上高（対期初想定比）



主な要因

ポジティブ

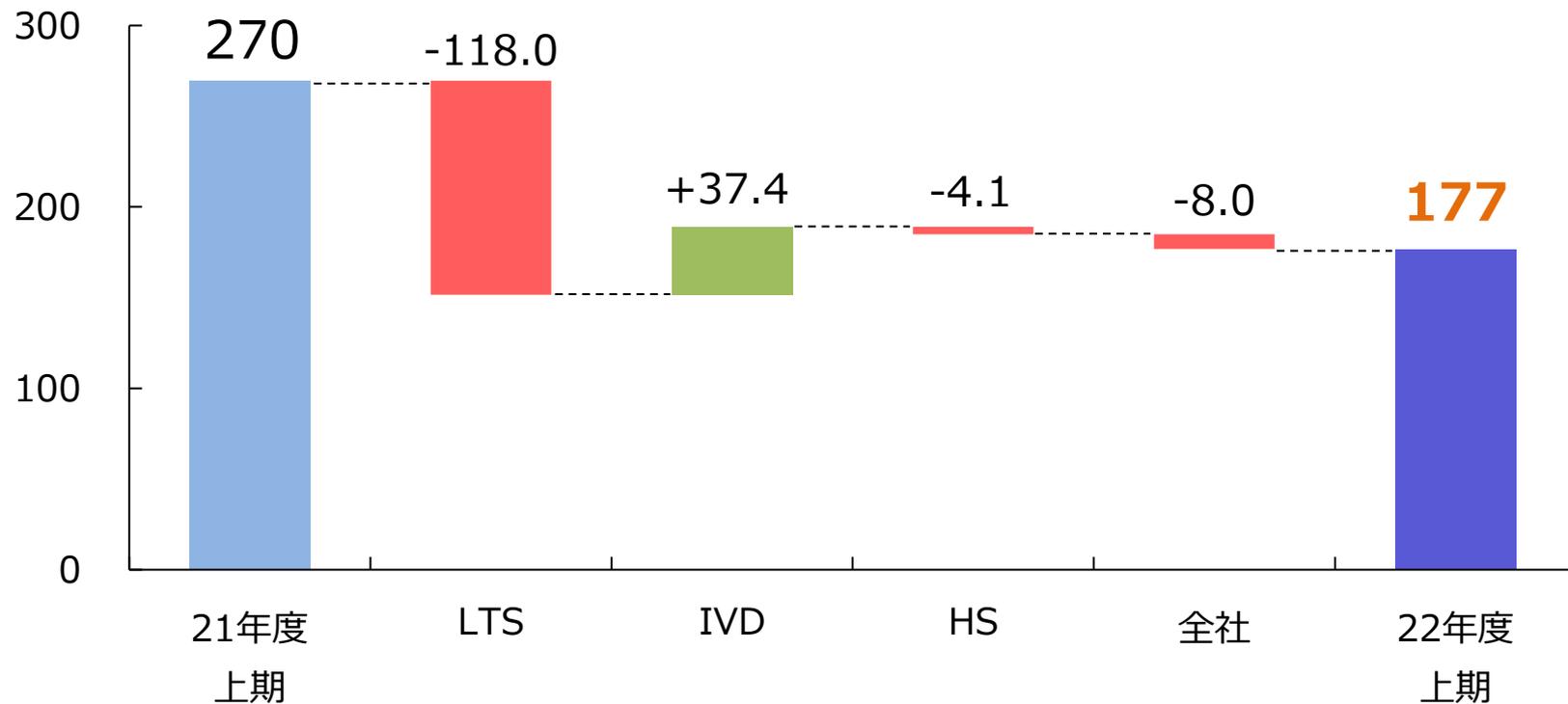
- 第7波にともなう検査需要の拡大・継続
(期初前提：感染は徐々に収束)

ネガティブ

- 6月以降の入国規制緩和にともなう入国者への抗原定量検査の減少
(期初前提：一定レベルの需要が継続)

連結営業利益 対前年同期比較

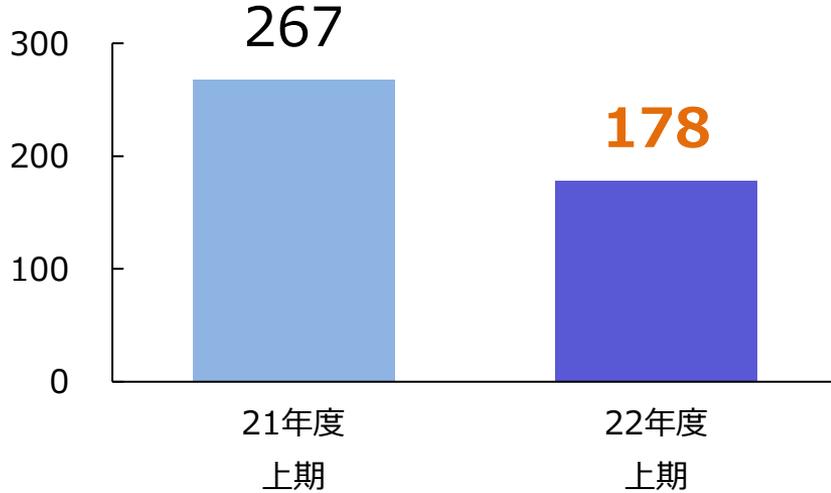
(億円)



連結経常利益および四半期純利益

経常利益

(億円)

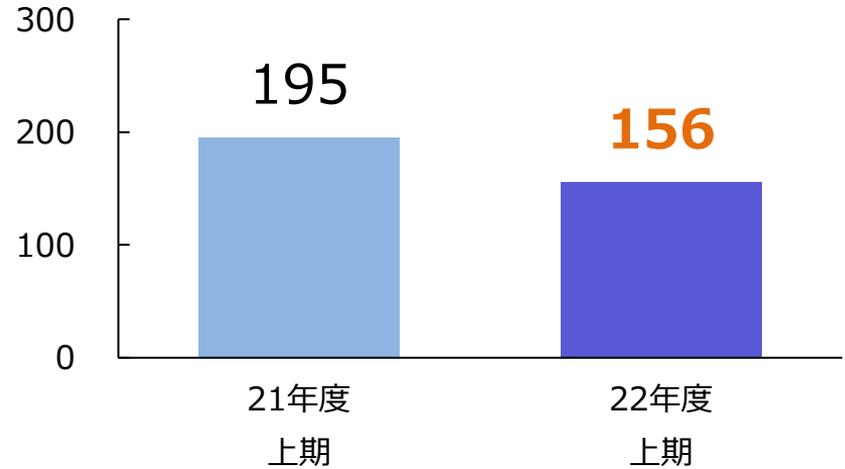


主な要因

- 為替差益 +10.3億円
- 持分法による投資損失 ▲11.5億円
 - ✓ BMGL ▲8.6億円
 - ✓ 平安保険グループとのJV ▲3.5億円

四半期純利益

(億円)

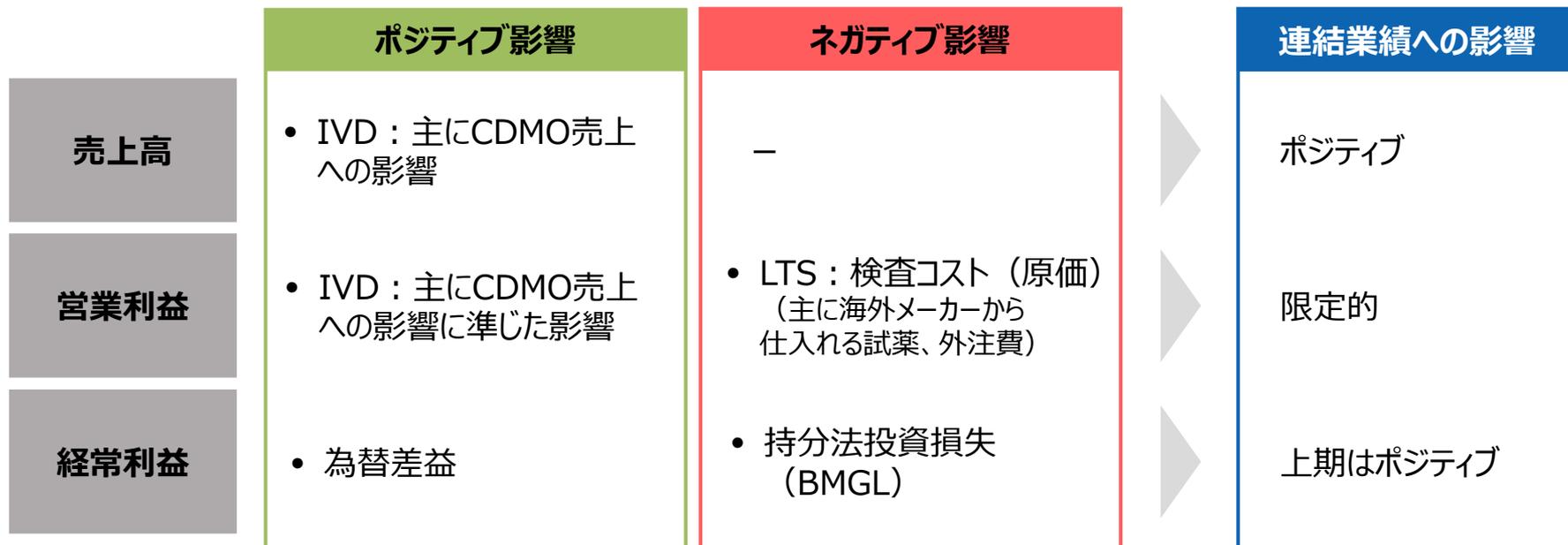


主な要因

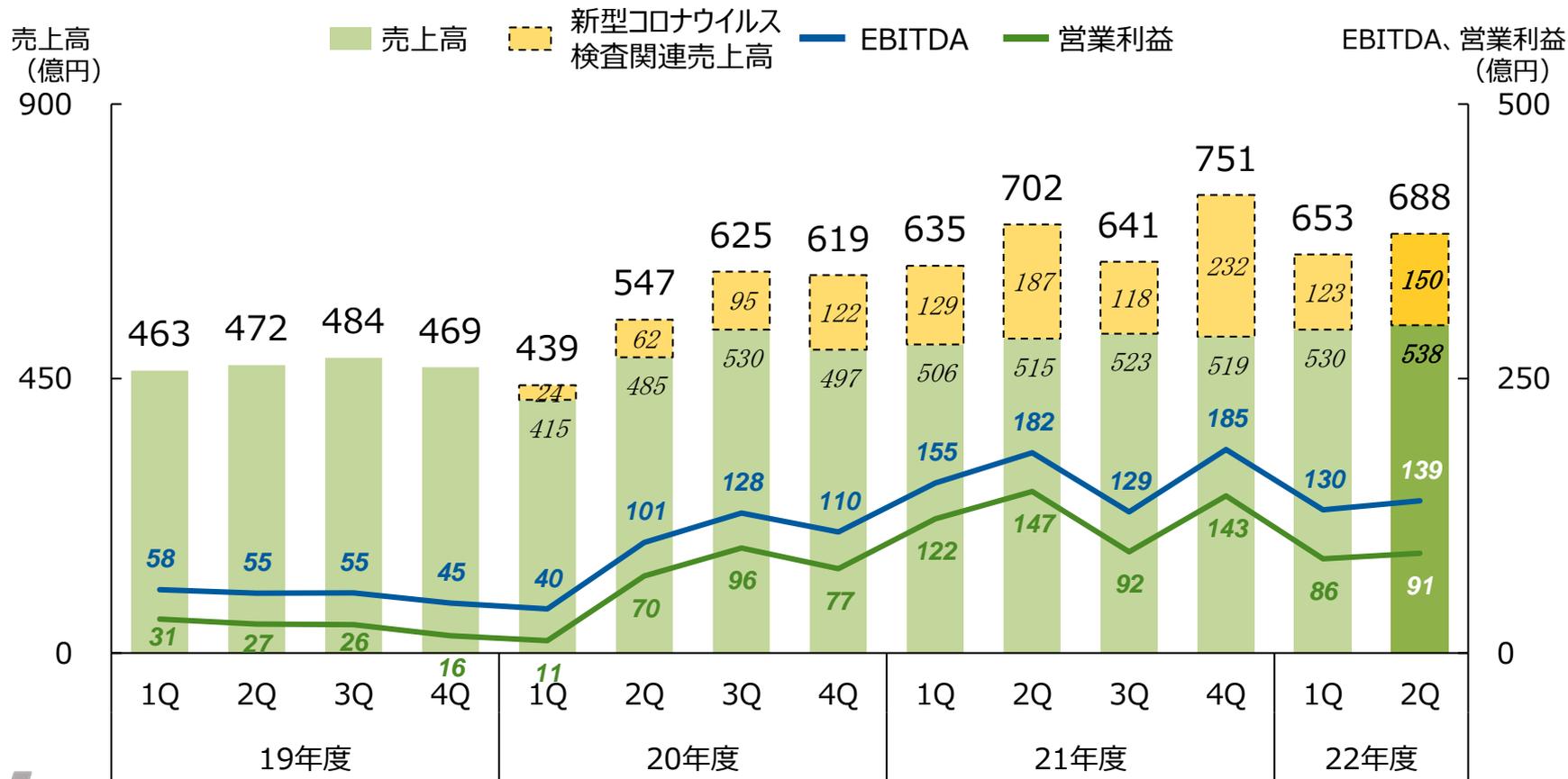
- 固定資産売却益 +26.2億円
(Fujirebio Taiwan Inc.)

為替変動（円安）による主な影響

- 売上高：ポジティブ影響
- 営業利益：連結業績への影響は限定的
- 経常利益：上期はポジティブ



四半期毎の業績推移



LTS事業

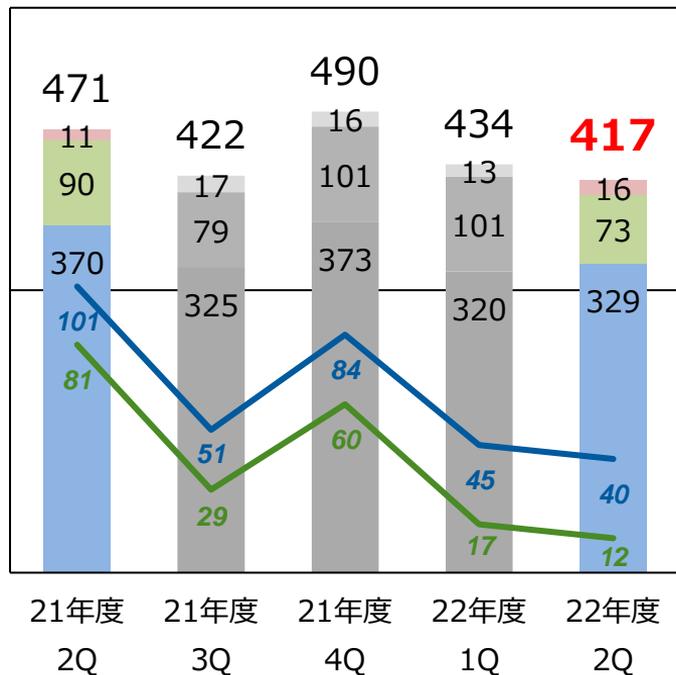
四半期推移

売上高
(億円)

600

300

0



21年度 2Q 21年度 3Q 21年度 4Q 22年度 1Q 22年度 2Q

院外事業 院内事業 その他
EBITDA 営業利益

EBITDA
営業利益
(億円)

200

100

0

対前年同期比

(億円)

	21年度 上期	22年度 上期	対前期比 増減	
売上高	888	850	-37.6	-4.2%
院外事業	708	649	-59.6	-8.4%
院内事業	159	173	+14.9	+9.4%
その他	21	28	+7.2	+33.8%
EBITDA	187	86	-101.9	-54.4%
営業利益	147	29	-118.0	-80.1%

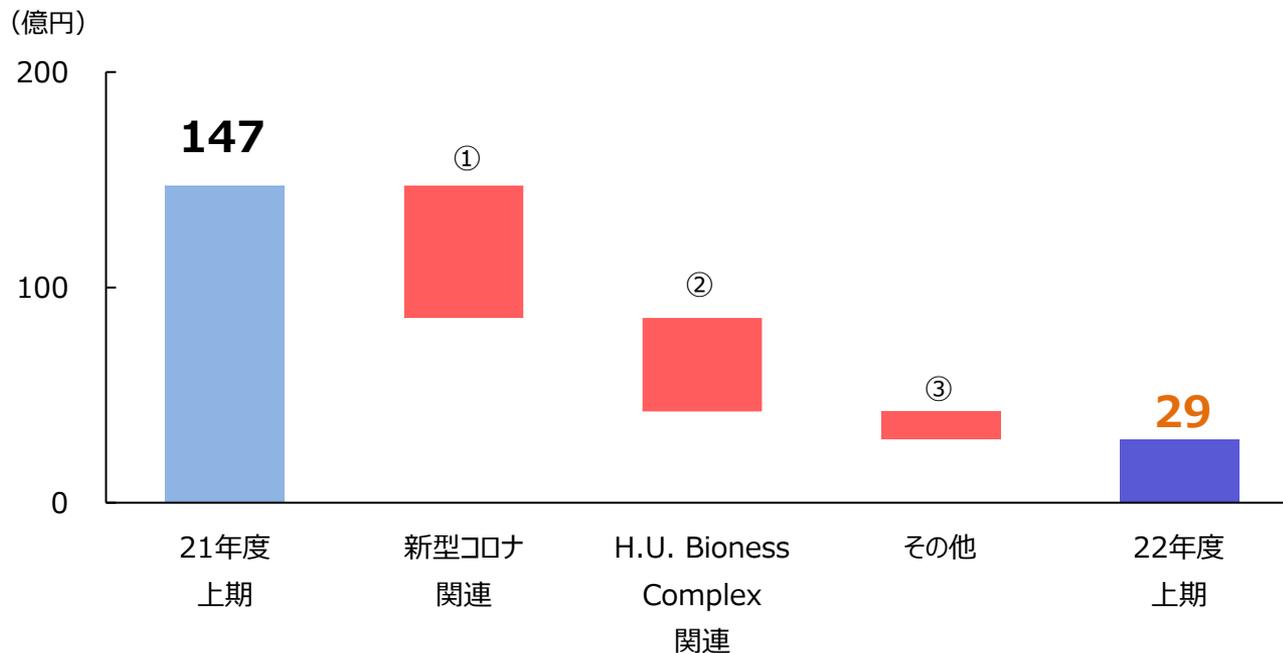
売上高

- 新型コロナウイルス関連：約161億円（前期約225億円）
増収：エスプラインの販売等
減収：PCR検査、21年度は一過性売上（大規模イベント関連）
（空港検疫所における抗原定量検査は前年並み）
- 遺伝子関連検査の増加
- テスト数の増加

営業利益

- 新型コロナウイルス関連検査におけるPCR検査を中心とした診療報酬点数の減少
- H.U. Bioness Complex関連費用（前期：約16億円）
一時費用含む経費：約41億円、減価償却費：約18億円

LTS営業利益対前年同期比

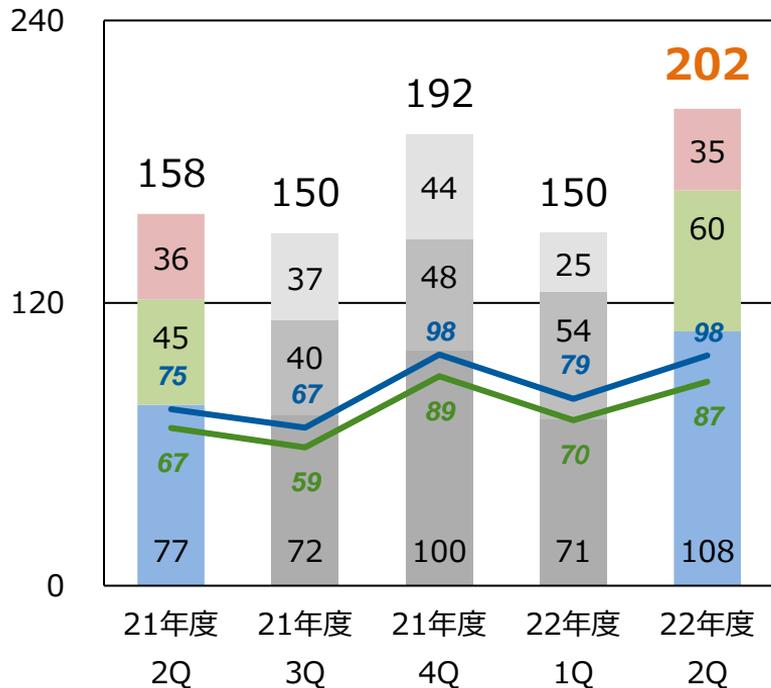


- ① 新型コロナ診療報酬改定、21年度2Qに実施した大規模イベント対応の影響
- ② 稼働範囲の拡大に伴う費用増（一時費用、減価償却費、ランニングコスト）
- ③ エネルギーコスト・試薬コストの増加等

IVD事業

四半期推移

売上高
(億円)



EBITDA
営業利益
(億円)

240

120

0

21年度 2Q 21年度 3Q 21年度 4Q 22年度 1Q 22年度 2Q

ルミパルス事業 CDMO・原材料供給事業
その他製品 EBITDA 営業利益

対前年同期比

(億円)

	21年度 上期	22年度 上期	対前期比 増減	
売上高	302	352	+50.0	+16.5%
ルミパルス	148	179	+30.8	+20.8%
国内	127	160	+33.4	+26.3%
海外	21	19	-2.6	-11.9%
CDMO・原材料	94	113	+19.5	+20.7%
その他	60	60	-0.3	-0.5%
EBITDA	135	177	+42.4	+31.4%
営業利益	120	157	+37.4	+31.2%

ルミパルス 内販売売上高	43	36	-6.1	-14.4%
--------------	----	----	------	--------

売上高

- 新型コロナウイルス関連：約112億円（前期：約91億円）
✓ ルミパルスおよびエスプラインSARS-CoV-2の販売増加
- ベース：国内ルミパルスを中心に伸長

営業利益

- 増収による増益

為替影響（売上高：+23億円、営業利益：+7億円）

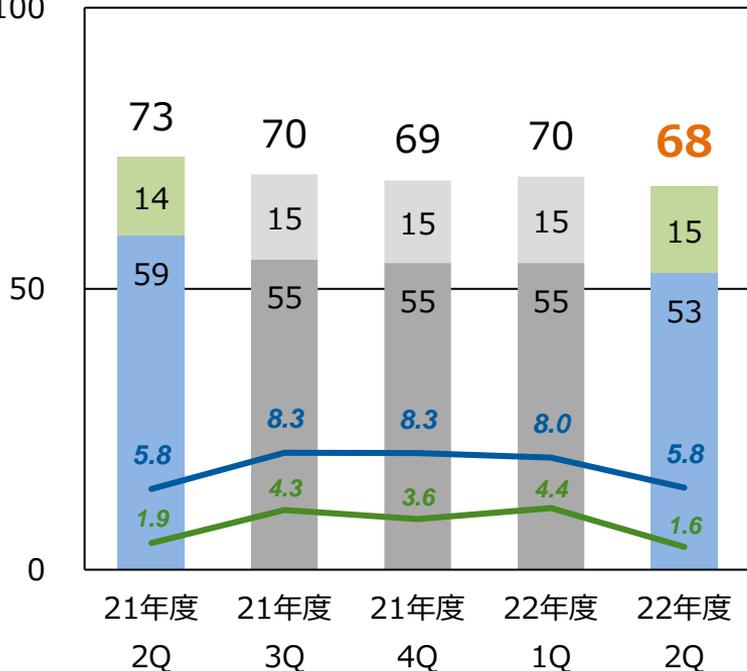
※ 2021年度第3四半期より、事業・製品特性を考慮し、OEM・原材料供給事業の名称をCDMO・原材料供給事業へ変更

HS事業

四半期推移

売上高
(億円)

100



21年度 2Q 21年度 3Q 21年度 4Q 22年度 1Q 22年度 2Q

■ 滅菌関連事業 ■ 在宅・福祉用具事業

— EBITDA — 営業利益

EBITDA
営業利益
(億円)

40

20

0

対前年同期比

(億円)

	21年度 上期	22年度 上期	対前期比 増減	
売上高	147	138	-8.9	-6.1%
滅菌関連	119	107	-11.6	-9.8%
在宅・福祉用具	28	31	+2.7	+9.5%
EBITDA	17.0	13.8	-3.2	-18.6%
営業利益	10.1	6.0	-4.1	-40.3%

売上高

滅菌関連

- 大口顧客における医材預託品販売契約の終了（21年9月末に終了）
- 物販を中心とした伸長

在宅・福祉用具

- 増収を維持

営業利益

- 人件費の増加
- 将来成長に向けた先行費用の影響

連結業績（対前年同期比）

(億円)

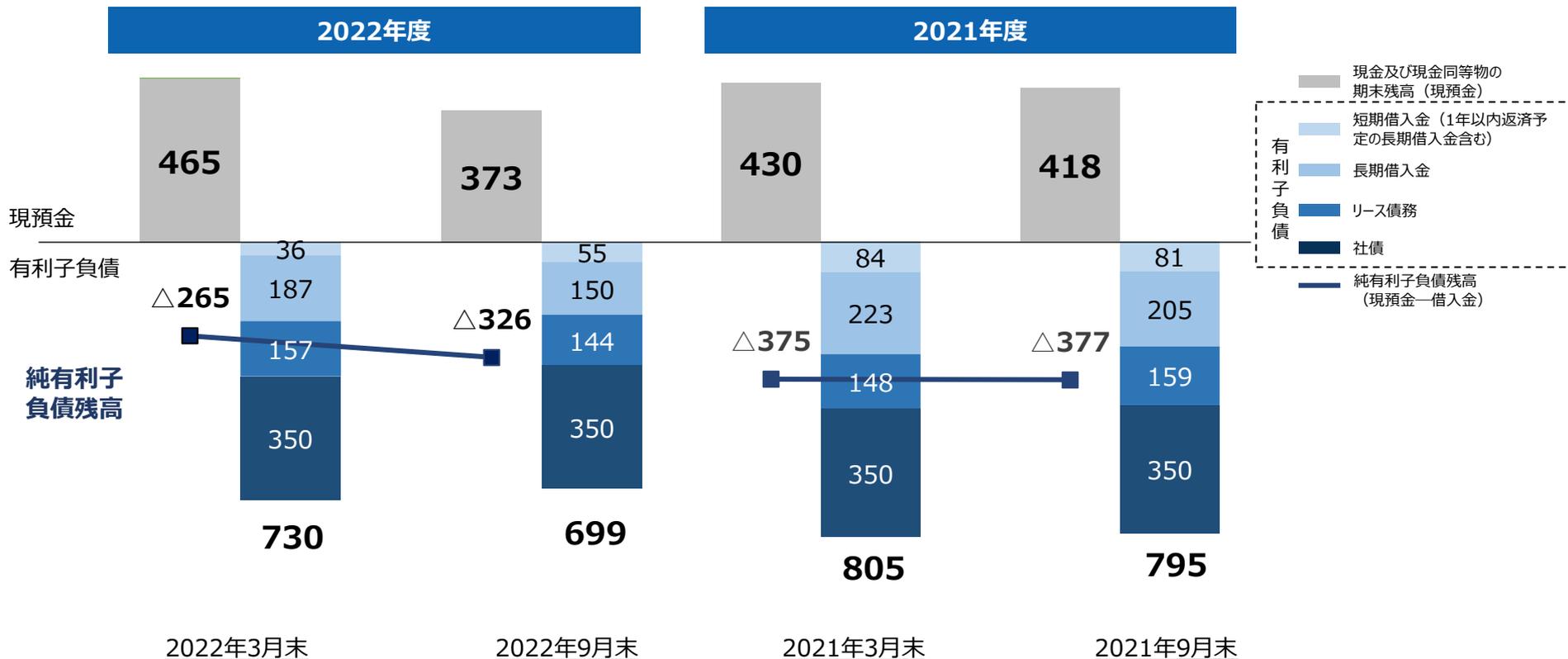
	21年度上期		22年度上期		対前期比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減	
売上高	1,337		1,341		+3.4	+0.3%
LTS	888		850		-37.6	-4.2%
IVD	302		352		+50.0	+16.5%
HS	147		138		-8.9	-6.1%
営業利益^{※1}	270	20.2%	177	13.2%	-92.7	-34.4%
LTS	147	16.6%	29	3.4%	-118.0	-80.1%
IVD	120	39.6%	157	44.6%	+37.4	+31.2%
HS	10	6.9%	6	4.4%	-4.1	-40.3%
経常利益	267	20.0%	178	13.3%	-89.5	-33.5%
四半期純利益	195	14.6%	156	11.6%	-39.7	-20.3%
EBITDA^{※2}	337	25.2%	269	20.1%	-68.3	-20.3%

※1 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（21年度上期：▲7.5億円、22年度上期：▲15.5億円）

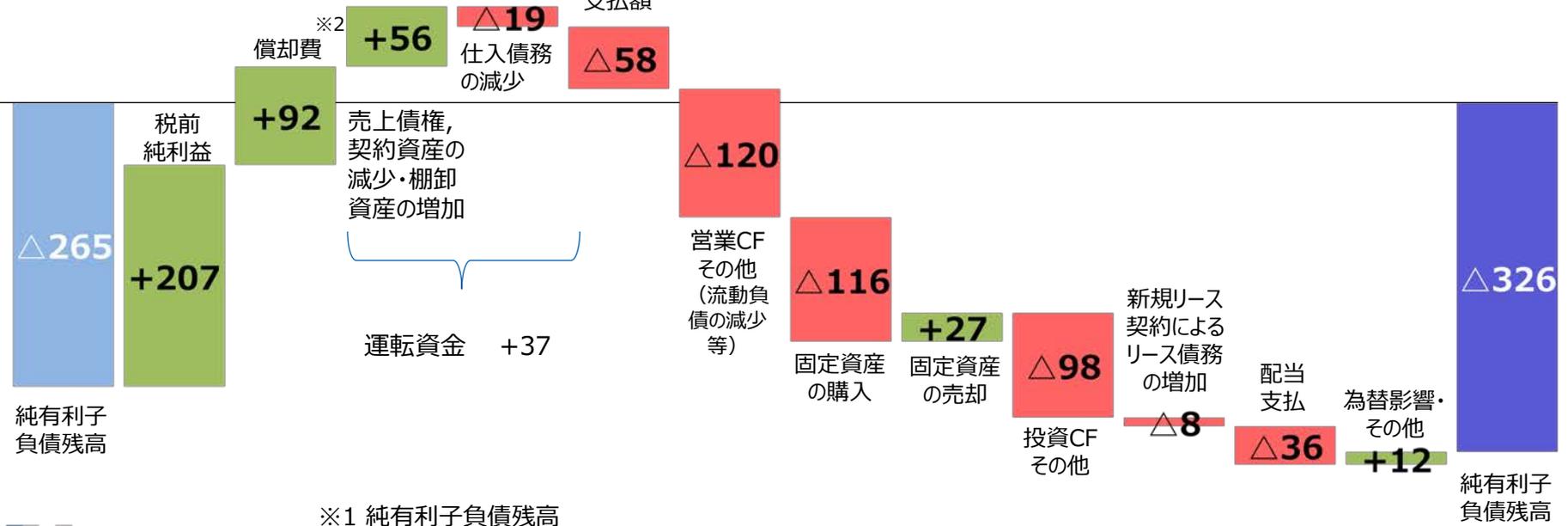
※2 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

現預金・有利子負債残高

(億円)



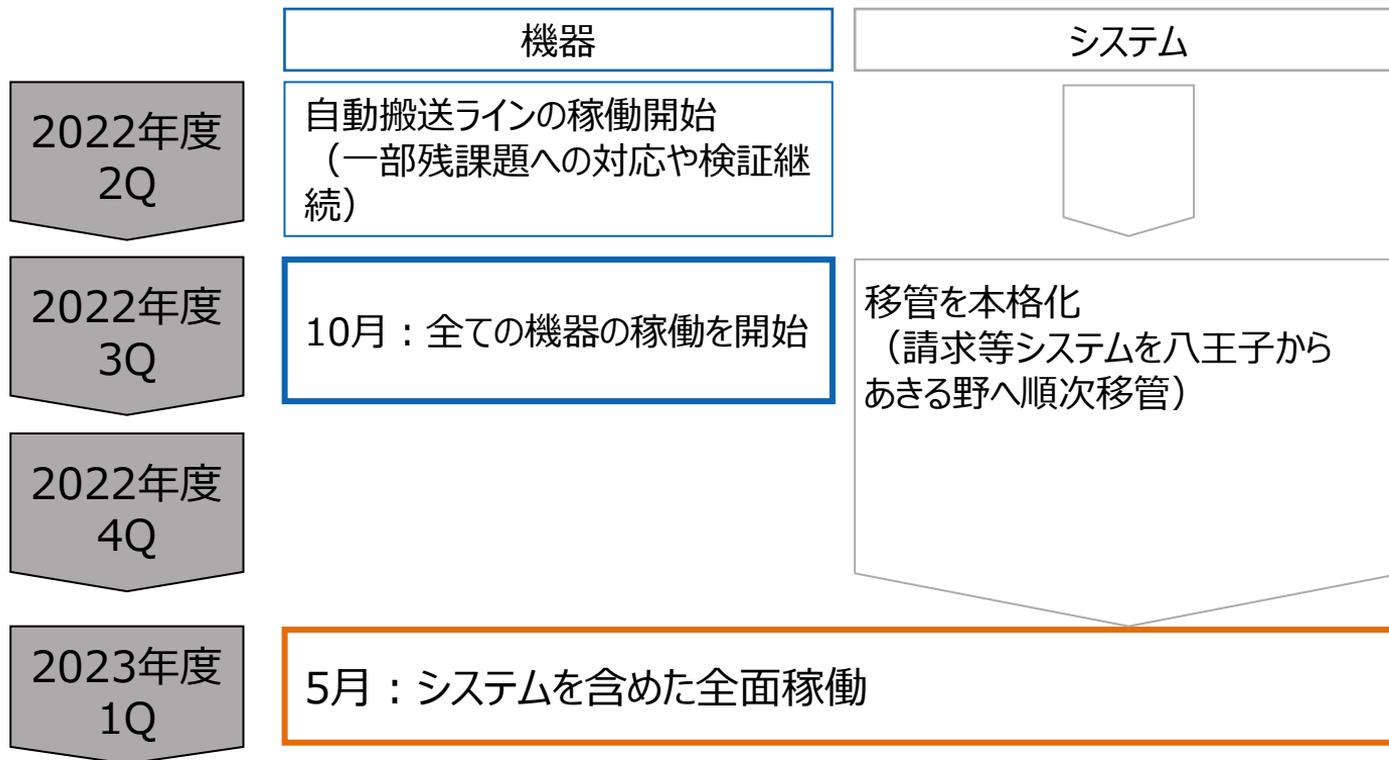
2022年度上期連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



戦略の進捗、および2022年度通期業績の見通し

戦略の進捗：H.U. Bioness Complexの現状と見通し

23年度初頭の全面稼働に向けて計画を推進中



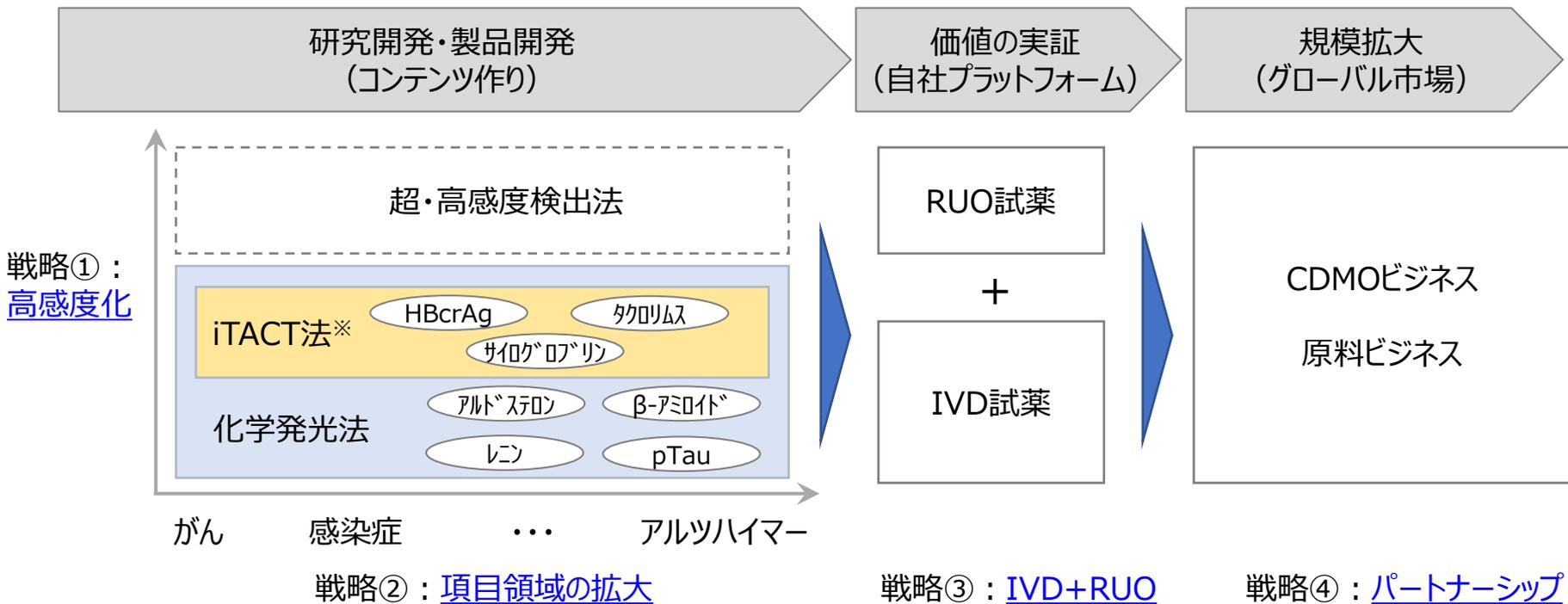
戦略の進捗：H.U. Bioness Complex 関連費用・発現効果の22年度見込み

	2022年度 上期実績	2022年度年間見込み額		進捗遅れにともなう 見直しの要因	
		期初想定	現時点想定		
コスト	一時費用	▲24億円	▲36億円	▲36億円	<ul style="list-style-type: none"> 開始時期の遅れによる未費消 検証期間および並行稼働期間延長による増加
	減価償却費	▲18億円	▲50億円	▲42億円	<ul style="list-style-type: none"> 計上開始時期の遅れ
	ランニング コスト※	▲17億円	▲38億円	▲36億円	<ul style="list-style-type: none"> 計上開始時期の遅れ
	コスト 合計	▲59億円	▲124億円	▲114億円	
効果	効率化 効果	—	+14億円	限定的	<ul style="list-style-type: none"> 発現の遅れ

※ 賃料を含む

戦略の進捗：IVD成長戦略

戦略①：
高感度化



M&A (ADx、Fluxus)、技術ライセンス契約 (ペプチドリーム) 等による戦略の強化・加速

戦略の進捗：メディスケットの事業開始

メディパルホールディングス
医薬品等卸売事業



MEDISKET

株式会社メディスケット

「医療と健康、美」を支える国内最大の
ヘルスケア物流プラットフォームへ

- 社会課題の解決
- 顧客利便性の向上
- トータルヘルスケアの提供

H.U.グループホールディングス
検査・関連サービス事業



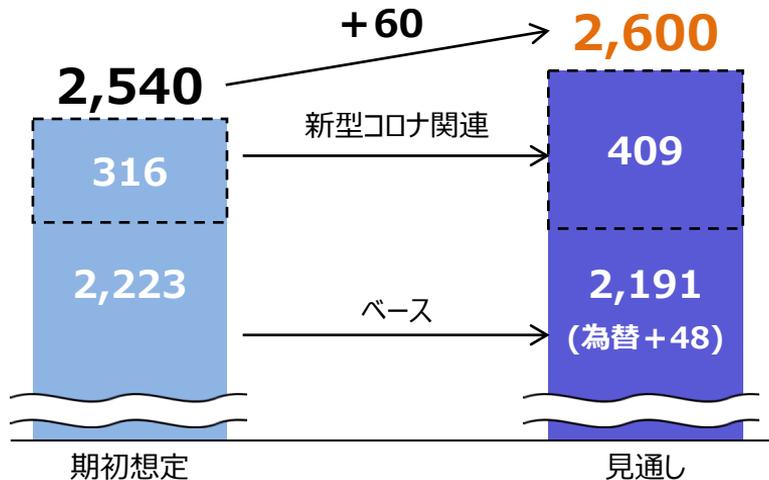
荷主企業との新たなビジネス

- 2022年12月1日から事業開始
- 2025年度に1ID当たり集荷コスト20－30%改善を目指す（2021年度比）

通期連結業績の見通し（売上高、営業利益）

売上高

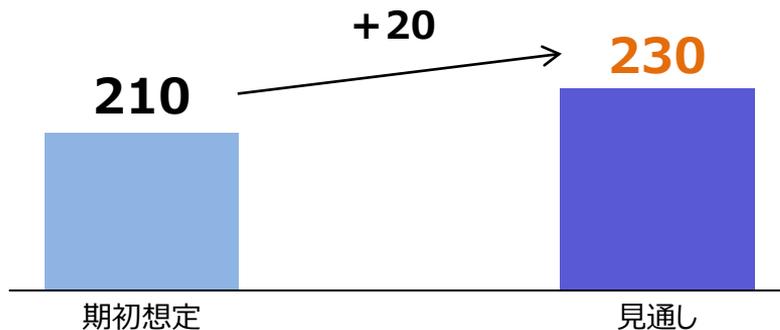
(億円)



- 新型コロナウイルス影響
 - ✓ 上期：第7波による期初計画を上回る検査需要
 - ✓ 下期：期初計画の範囲内となる見通し
(LTSは検疫所売上が減少、IVDは抗原検査製品売上が増加)
 - ✓ ベース事業における各種成長施策の遅延
- 為替（円安）影響：+48億円

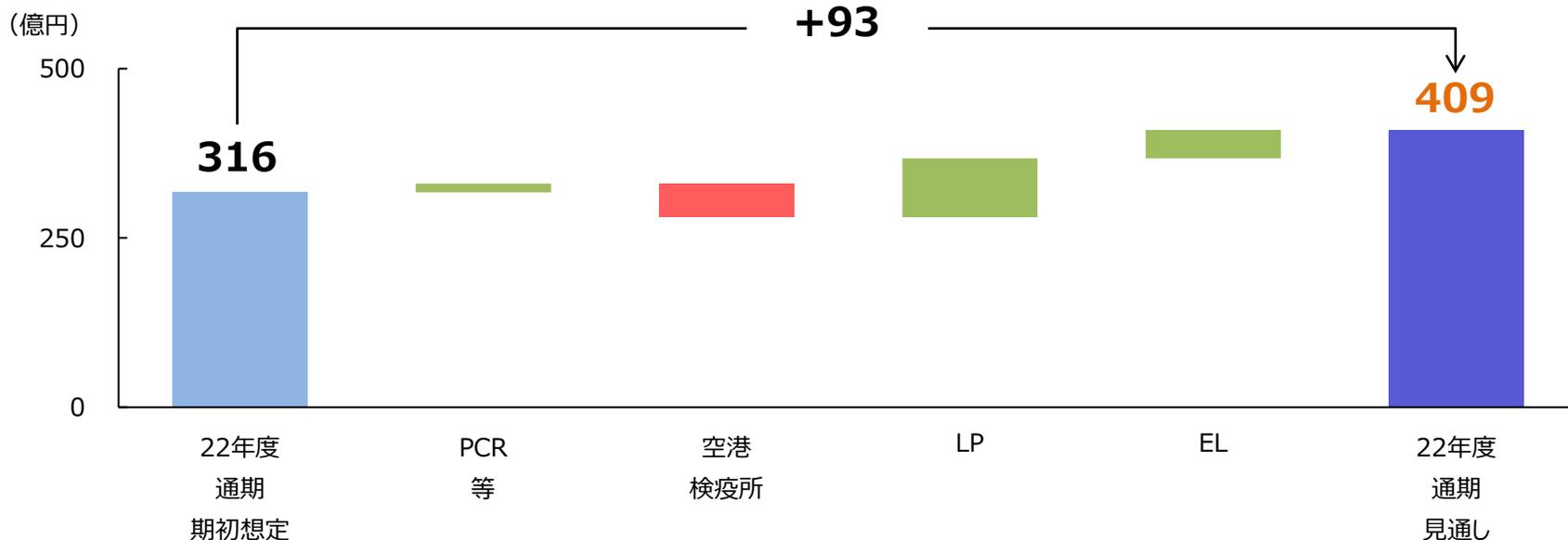
営業利益

(億円)



- 新型コロナ関連売上の上方修正にともなう利益増
- H.U. Bioness Complexプロジェクト進捗遅れによる影響は限定的
 - ✓ 発生を見込むコスト・効率化効果ともに減少
- 為替（円安）影響は限定的

22年度通期COVID-19売上見通し（対期初想定比）



主な前提

ポジティブ

- 抗原検査需要（ルミパルス、エスプライン）が想定以上に継続する見通し

ネガティブ

- 入国時検査の原則撤廃によって、検疫所での抗原検査数は低水準に留まる見通し

営業利益の下期見通し（対上期実績）

対上期実績において、下期に変動する主要素

- 新型コロナウイルス関連
 - ✓ 検疫所における抗原定量検査は大きく減少する見込み
 - ✓ 上記以外も減少を見込む
- LTSにおけるベースビジネス
 - ✓ 季節性（稼働日等）
 - ✓ ミックスの変化
 - ✓ エネルギーコストの上昇

※H.U. Bioness Complex関連費用は上期並み

上期 実績	新型コロナウイルス関連			H.U. Bioness Complex 関連	LTSベースビジネス			下期 見通し
	PCR	検疫所	抗原検査		季節性	ミックス	エネルギー コスト	
177 億円	減少	大きく 減少	減少	上期並み	減少	悪化	上昇	53 億円

通期連結業績の見通し (PL)

(億円)

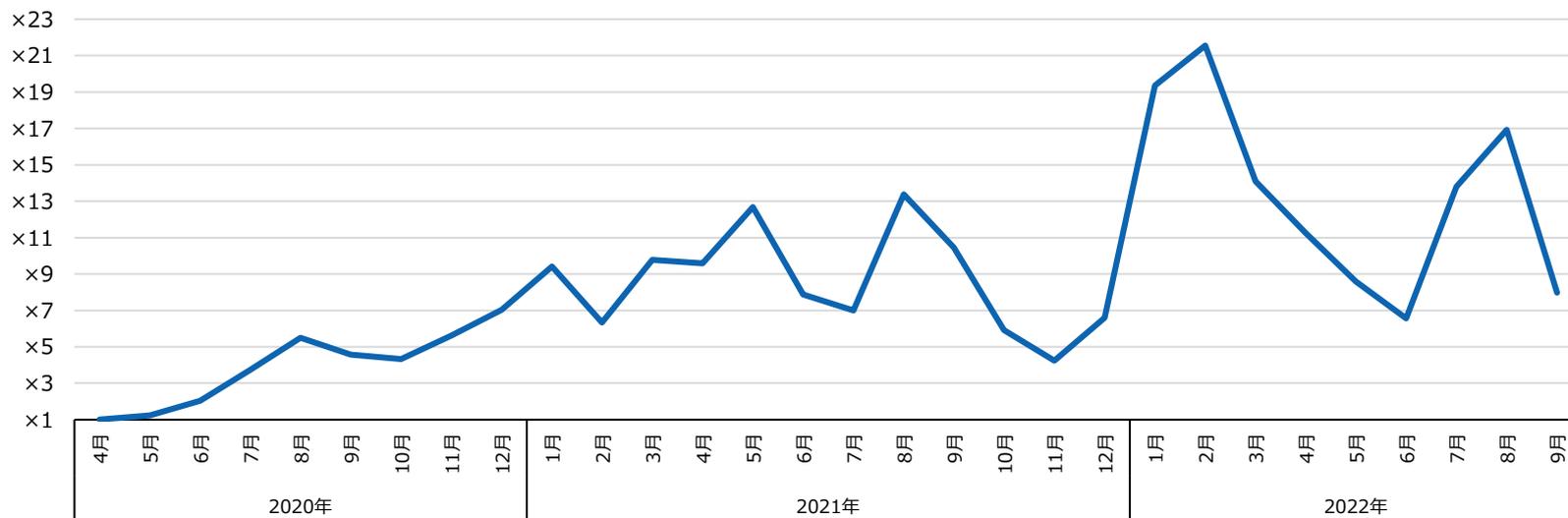
	2021年度 実績	2022年度					
		期初想定	通期見通し	対前年同期比		対期初計画比	
売上高	2,729	2,540	2,600	-129	-4.7%	+60	+2.4%
EBITDA	651	410	431	-220	-33.8%	+21	+5.1%
営業利益	505	210	230	-275	-54.4%	+20	+9.5%
経常利益	474	180	208	-266	-56.1%	+28	+15.6%
当期純利益	296	125	158	-138	-46.6%	+33	+26.4%
ROE	23.2%	8.8%	11.5%				
ROIC	15.4%	6.0%	6.8%				

Appendix

新型コロナウイルスPCR検査実施数

PCR検査受託状況（新型コロナウイルス関連）

2020年4月の受託総数を1とした場合の増加率※

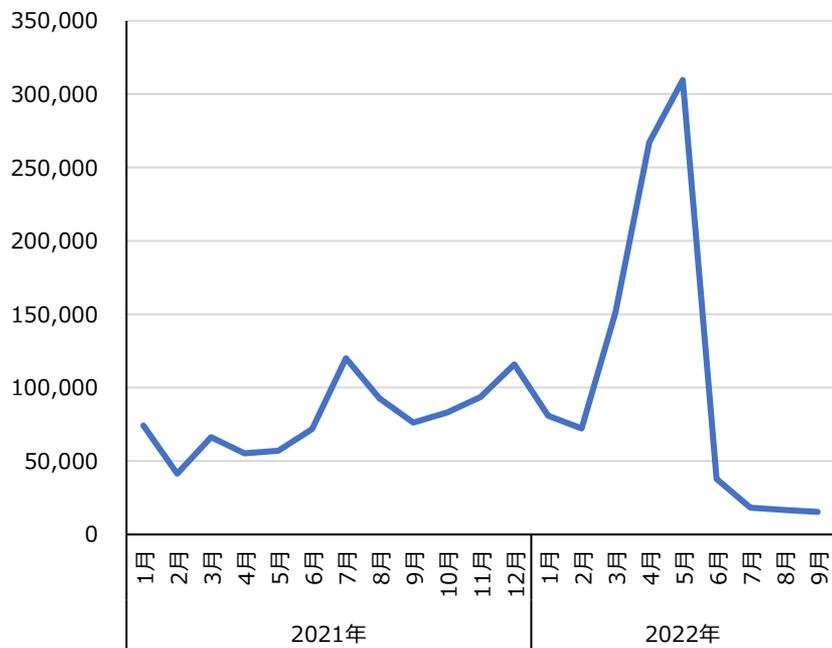


7-8月は第7波にともなって増加し、9月は減少傾向
上期ではほぼ前年並み

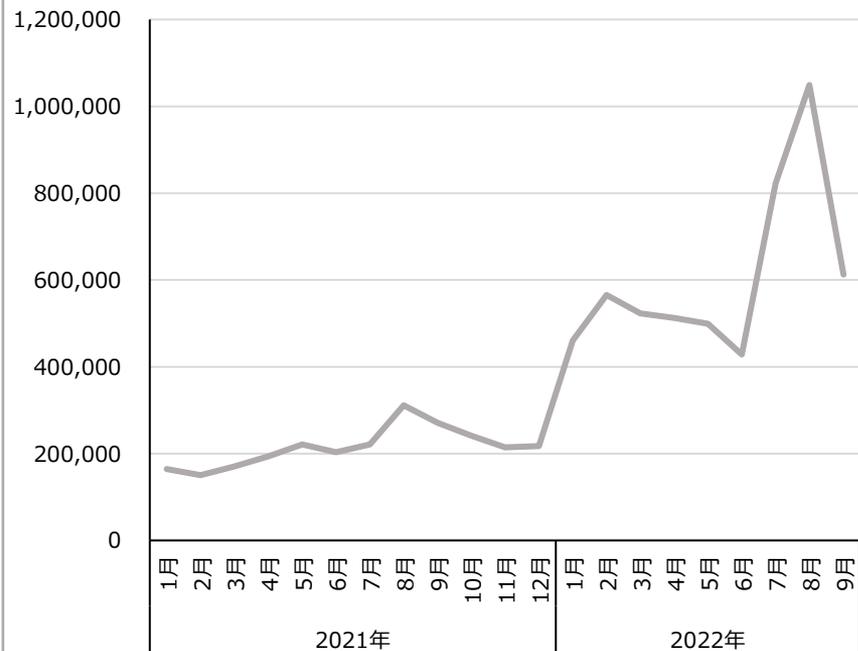
※ SRL、日本臨床の全国での受託

新型コロナウイルス抗原定量検査実施数

空港検疫所での月次抗原定量検査実施数※



医療機関における月次での高感度抗原定量検査実施数※



【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

IR/SR部 ir@hugp.com

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。